



μミューとロマーノのなんとなく量子力学



量子と素粒子のちがって？



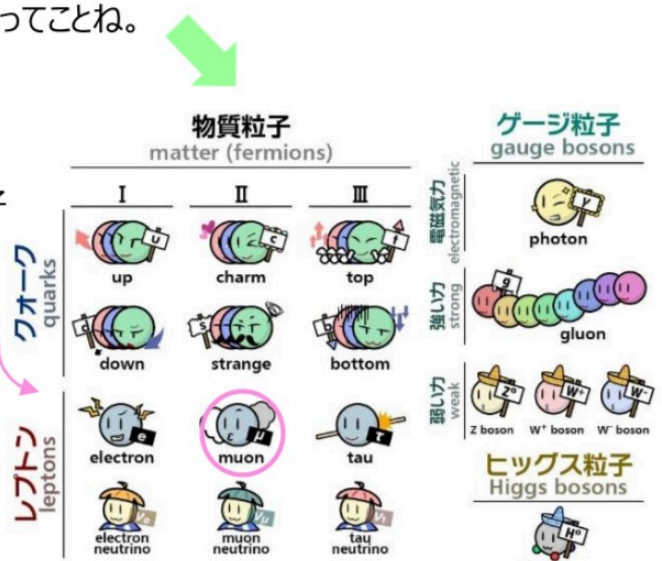
ミューμとロマーノのなんとなく量子力学、はじまりはじまりい〜、わ〜わ〜

さて、唐突にはじまりましたが、まずは、よく聞く「量子とはエネルギーの最小単位」って
 いうのは、みんなもなんとなく理解できるとして、じゃ、素粒子って何なの？
 そう、「物質（粒）の最小単位」…つまり、量子≧素粒子ってことね。
 ぜ〜えんたいの単位みたいな感じで。
 分子>原子>陽子・中性子、電子>クォーク・レプトン
 これ、みいんな量子なのね…

それより小さくは分解できない、**クォーク**と**レプトン**が素粒子
 陽子や中性子をつくってる仲間がクォークで、
 電子の仲間はレプトン…ほら、**ミューμ**がでてきたじゃん！

アインシュタインは「光は波だけど粒でもある」といった。
 光のエネルギーの最小単位を「*光量子」と呼んで、その光電
 効果の証明でノーベル賞をもらった…*今では、光子と呼ばれる

宇宙から大気中に飛び込んで、新たに生まれた二次宇宙線の中で、
 地上にまで届くのが、**ミューμ**（ミューわ）とニュートリノ



By HiggsTan (ひっぐすたん)



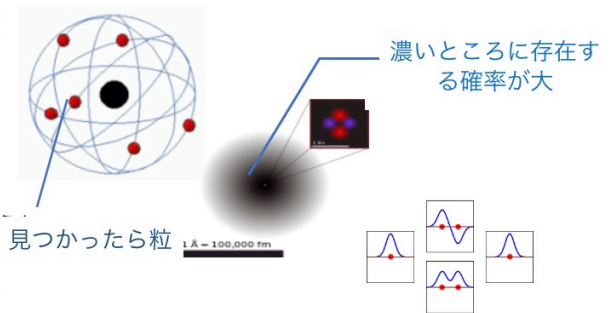
観察者が見ないと起こらないってどーいうこと？

ミューμとロマーノのなんとなく量子力学...電子のふるまい

前回、ミューμとかニューνとか子猫の鳴き声みたいなのがいっぱいできてきたけど、単位を表す文字ってギリシャ語なのね... (記号じゃなかったんだ！)
ご主人様がやってるぐるぐる水の装置「νG (ニュージー)」っていうんだけど、そこからきてたのかあ「金属の自由電子が供与されて」とかいつもいってるけど、電子がわたし (ミューμ・ミューオン) の仲間だったって知らなかったな、先祖は偉大なシュレディンガーの猫なんだけどわたし傍系だし、日本生まれ (笑)

電子は、見ていなければ波としてふるまってる、でもそれは目に見えるような「〜」ではなくて、そこにいるかどうかの確率としてしか表せないから、結果的に観察できたときにはいつも粒として見つかったら？

ボルンってひと、すごいね！うちのじいさんを相当悩ませたらしいけど、「神はサイコロをふらない！」っていったアインシュタインも曖昧さを許容できなかったみたい...意外にね、自然界にはえっ？ってことが起こるのよって、文系の方が素直にそうなのってねえ...



すべてを、人間の語彙で表現するのは不可能だから、みんなが理解できるよ難しいね...量子力学って1926年くらいにはじまった新しい分野なんだけど、ものごとの本質をついてるような気がするにやー、よくはわからないけどね

磁石ってほんとうは電子の束らしい...？

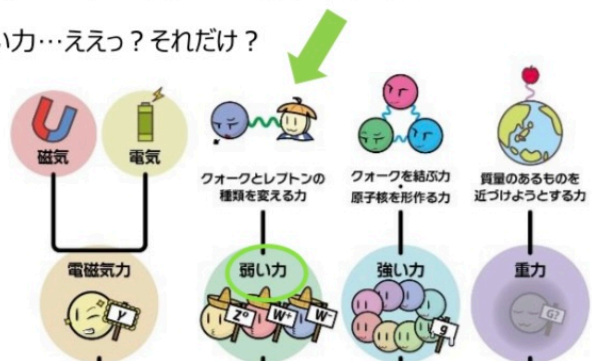
ミューμとロマーノのなんとなく量子力学...弱い力って？

電子の流れが電流...電流が流れると磁場ができる、学校で習ったから深く考えずに、そうだね、って思ってるけど、それでもいいよ、そして、その磁場を量子的に見ると、物質としての空間みたいな感じ、「粒でもあるけど光でもある」のが量子のおきてだから (笑)、それは、光のエネルギーみたいな存在ともいえる。実は、磁石って電子の磁場の向きがそろって束になったようなものなんだって、電子 e-は、原子核のまわりを永遠にぐるぐるスピンしているから磁場ができる、みたいな...

よく考えたら、磁石と電気ってもともと兄弟みたいなもんなんだね。ネオジウムみたいな強力な磁石も見方を変えれば光の束の塊みたいなものかあ、物質として見つかった時には粒ってやつだね。

ひとのからだも電気信号で動いてる。だから、心電図とか脳波とか波形で確認できる。傷を治す時、やられた細胞のまわりに修復物質があつまって「+」に偏るから電圧 (電位差) が生じる。で、マイクロカレントって微細な電流を外から流してやると、早く治ったり、痛みが治まったりする (ってご主人がいつもいってる) ...ぐるぐる量子水νG装置の中にいっぱい詰まってるナットのミニサイズ (1mm) をツボに貼ると、わざわざ電気を流さなくても同じような効果がある...

世の中には4つの力しかない、重力、電磁気力、強い力、弱い力...ええ？それだけ？
強い方がいっぱい効くって思いがちだけど、そうともいえない。
ちゃんと理屈がある。マイクロカレントは電子の流れだから「微細な」必要がある...



(磁石の研究ではずっと日本 (東北) は世界の聖地なんだって、知らなかったよなー)



エピジェネティクスって何のこと？



ミューμとロマーノのなんとなく量子力学…シグナルが遺伝子を変える

ひとのからだは、シグナルの伝達で制御されてる。だから、脳～神経～細胞に電気信号が伝わるけど、逆に、細胞からのシグナル→脳→必要なものを供給しなさい、と指令が出たりもする。つまり、細胞のどこかで問題があった時、全体としてバランスがとりあえるように刻々と対応が変化してるわけで、これは、遺伝子にも同じようなことがいえて、環境からの刺激をキャッチして、遺伝子が発動したりしなかったり、実は、いちいち脳で制御する間もなく反応しちゃう…

よく、ジャンク DNA なんていうけど、眠ってるだけ zzz~冷静に考えると、無から有なんて生まれるはずがなく、設計図もないのにメカニックが動いたりするわけでもない、使ってないだけで、ほんとうは全部ある。変化に応じて、その時必要な動きをするためのフォーメーションが変わっていく、だから、遺伝子は同じ双児でも、ぜんぜんちがう！そこに見える姿は、そのひとの人生そのものってわけ。すべての量子は光エネルギーの波でもあり、見つかった時は粒（物質）でもあるから、ひとと肉体と目には見えないところが2つで1つ。



マイクロな量子の世界に目をやると、ほんとうは、すべて1つの法則で動いているのかもしれない、と思えてくる。だって、宇宙のすべてのものは、同じ原子でつくられているから…

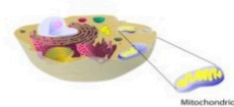
エピジェネティクスは、遺伝子を超えたコントロールって意味…だから、ハンデや劣等感なんかがあっても、そこからどンドンジャンク遺伝子を発動させて変身していけばいい、理系の頭が備わってなくても、文系的なイメージでとらえたってかまわない…だって、しよせんは、自分が意識・認識した世界を見ているだけだから、幸せに生きられるかどうかは、自分のこころしだい、ってことなんじゃないのかニャー



水とミトコンドリア、よもやま…



ミューμとロマーノのなんとなく量子力学…エネルギーっていったい



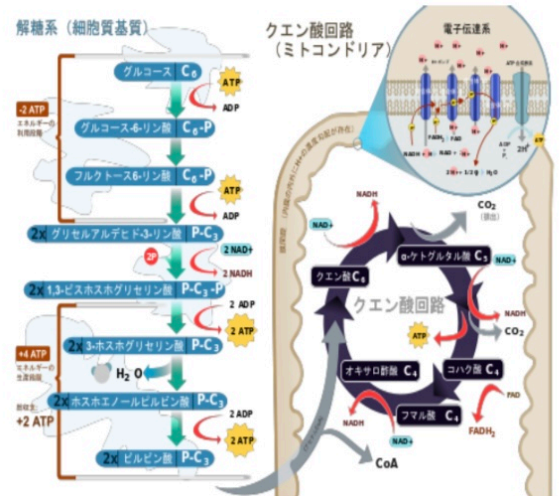
さっきからさ、光のエネルギー、エネルギーっていつてるけど、そもそも何なの？

時々、なんとなくなニュアンスでいたら、実は、ぜんぜんちがったりするじゃない…

エネルギーは仕事をする力、モノを動かす能力、ってエライ先生が書いてた。光、熱、動力、音…みんなエネルギー、おひさまにあると暖かいから太陽の光はエネルギーって感じがするもんね。

植物は太陽の光で水と二酸化炭素から光合成をする、ひとは、食べたものからミトコンドリアで ATP を発電する。葉緑素と赤血球は、実は、よく似てる、っていうか、核の真ん中が Fe 鉄か Mg マグネシウムかのちがいがいしかない…そして、古代のシアノバクテリアに近い海苔とかわかめとか以降の真核生物は、全部同じしくみで ATP を産生してる。ミューμもロマーノもご主人もその点ではおんなじ。

宇宙のものは、すべて同じ原子で、っていうのもそうだけど…



例のさ、ぐるぐる量子水の装置でぐるぐるした水で栽培とか培養とかすると、ATP の産生効率が 1.5 倍になる

ご主人がいつもいつてる、特許も取ったからほんとだよって… 水の深い考察で知られたヴィクトル・シャウベルガー (奥)

がいった「求心性螺旋運動」と量子のスピンは、原子の電子のやりとりだから似たようなものだって…あんなステンレスのナットでそんなことができるなんて不思議だニャー、あ、ロマーノがきた！おやつ食べよ

